

宮大工入門 ～ます組みをつくろう～

7月23日（土） 7月24日（日）

7月23日、24日の2日間、豊田市の足助地区で「宮大工入門～ます組みをつくろう～」を実施しました。講師は薬師寺の修復も手がけた足助在住の宮大工、藤井利成（ふじいとしなり）さん。講座には9名の子どもたちが参加しました。お寺や神社の屋根を支える仕組み、「ます組み」づくりに挑戦しました。



1日目、作業の前に、これから作る「ます組み」が実際に使われているところを見学するため、足助の街中にある慶安寺を訪れました。ここで子どもたちと藤井さんが初顔合わせ。お互いに自己紹介を行いました。

「見学させてもらうお寺に感謝の気持ちを込めて手を合わせましょう」みんなで手を合わせ、藤井さんの講義がスタート。ます組みの役割やお寺に施されている彫刻の紹介、慶安寺の歴史のお話などがありました。



四ツ松町にある藤井さんの工場へ移動し作業開始。ます組みは釘を使わず、木を組んで作ります。この日は木を組むための溝をノミで掘る作業を行いました。

細かくのこぎりで切込みを入れ、ノミでかきとります。この溝は重ねた木材が動かないよう、たいらに加工しなければなりません。子どもたちは藤井さんからなかなか合格がもらえず、何度も削りなおして、ようやく全員合格することが出来ました。



2日目。今日は昨日溝を掘った部品を紙やすりとかなで仕上げていきます。子どもたちはこの日も藤井さんからなかなかOKがもらえませんが、連日の単純作業に何度も音を上げそうになりましたが、藤井さんの「良くなるぞ!」「もうちょっとだ!」という励ましを受け、なんとか全ての部品を仕上げる事が出来ました。

木をつなぐ栓をつくり、いよいよ待ちに待った組み立て

作業。それぞれが一生涯懸命加工した部品がひとつになり、「ます組み」となる瞬間です。みんなそれまでの疲れも吹っ飛び、真剣な表情で組みあがる様子を見つめます。最後は全員で部品をはめ込み、見事「ます組み」が完成しました!



参加したみなさん、ます組みをつくってみてどんなことを学んだかな? 納得するまで妥協しないこと、昔の人の知恵、完成した時の達成感、たくさんあると思います。この気持ちを忘れないで、いつかまた思いだしてくださいね!

